

北陵新聞

発行編集
石川県立金沢北陵高等学校
生徒会
金沢市吉原町721番地
印刷所
(有)中西良一印刷

第25号内容

- 1面 贈る言葉
卒業式各賞・代表者
- 2面 贈る言葉
(卒業生・在校生)
私の合格体験記
部活動実績



希望をもって出会い、学び、切り拓いてきた三年間
新しいスタートをきる一人ひとりの未来に幸あれ!

三年担任から贈る言葉

初めて君たちを前にしたとき「何かわからないがなにかある」と直感がありました。その何かはいろいろなことをやってみようという気持ちで見えてきました。でも「知らないことだらけ」のスタートでした。「知らないこと」があると



31H 嶋 洋介

「何かわからないがなにかある」と直感がありました。その何かはいろいろなことをやってみようという気持ちで見えてきました。でも「知らないことだらけ」のスタートでした。「知らないこと」があると

「できるかも」

学校長 永井 康昭



卒業生の皆さん、おめでとうございませう。金沢北陵高校での三年間は、いかがでしたか。卒業後はすぐに実社会に働く人、また進学後に実社会に出る人もいます。これからの長い人生は、順境の時ばかりとは限りません。逆境、順境の何れの場合も与えられた運命として、その境遇に謙虚な心で素直に生きていくことが大切です。

最近、日本のスポーツ界では多くの選手が世界を舞台に活躍しています。世界を驚かせた「昨年のラグビーW杯での南アフリカ戦の勝利、リオオリンピック陸上男子400mリレー銀、水泳400m個人メドレー」



32H 山口由美子

長い間教員をしていますが、実は三年間持ち上がりで卒業生を送り出すのは初めてです。ですから、皆さんとの三年間は私にとってもかけがえのない日々でした。

三年間で一番印象に残っていることは、皆さんが著しく成長したことと、二次回は幼く、自己中心的な考え方や行動が多くあり、しかしその後、系列選択や科目選択をとおして、皆さんは自分の将来について深く考え、方針を定め、目標に向かって努力を始めた。三年次には一層行動に真面目が増



33H 古田 智子

3年生の皆さん、そして保護者の方々、卒業おめでとうございませう。縁あって2年間、担任をさせて頂いたことに本当に感謝しています。さまざまなことがありましたが、



34H 波佐間英之

3年生の皆さん、卒業おめでとうございませう。登下校だけでもその価値はあります。よく頑張りました。思い出せば3年前、期待を胸に入學したその日、保護者を含めた皆さんは自分の進路に直結するであろう系列選択の重要性を説き、その後十分に考えてもらったことと、その覚悟をもって2年次を過ごすことになるわけですが、修学旅行、飛行機による帰路のごく大きく揺れる人もいたのではないかと思います。3年次では、強い意志をもって進路実現に臨むため、十分な準備をしたことと思います。みんなが持っている、自分自身の多くのことを書き込んだ「進路ノート」。書くことで自己確認し、目標に邁進して、改めて今のノートを直直に挑戦することが大事です。



35H 横浜 哲也

三年生のみならず、卒業おめでとうございませう。私は北陵高校では初めての担任となりまして。今までは教科や部活動での関わりはありましたが、四月からは担任として生徒たちの進路指導にかかわれることになりました。祭ととも、球技大会や文化祭といった学校行事においてもワクワクしていました。そして、あつという間の一年が過ぎました。この一年間、本当に三年生は頑張りました。面接練習では最初は弱音を吐く生徒もいましたが、本番前には見違えるほど立派に受け答えができるようになりました。文化祭では飾り付けや買い出し、そして、当日の調理販売とチームワークよくこなしていました。球技大会では三年生の意地を見せ、勝利に結びつけた試合も多くありました。そのすべてが北陵高校で成長した証だと思います。これからはそれぞれ自分の道を歩き始めるわけですが、何事にも立ち向かっていく気持ちを大切に頑張ってください。

目的はどうあれ読書は生きていく上で必ず役に立つ。1月かからうと半年かからうと気にせずとにかく読書始めたものが運命の冊である。

情報課 土田俊彦

卒業式各賞・代表者

送辞	23H 坂下 沙葵	全国工業高等学校長協会	北陵栄誉賞
答辞	31H 神野 凌輔	ジュニアマイスター	北陵スポーツ賞
同窓会入会式挨拶	32H 梶 弥音	ゴールド認定特別表彰	31H 清水 佳佑
卒業記念品贈呈	32H 上前 匠平	シルバー認定	31H 優大
生徒会記念品受領	35H 高木 絃巴		34H 谷原 夏輝
生徒会記念品贈呈	24H 林 佑里香		33H 村上 明樹
総合学科成績優秀者表彰	31H 矢津田風雅		33H 竹俣明日香
石川県鉄工機電協会会長賞	34H 高井 優翔		33H 山田 郁馬
産業教育振興中央会会長賞	35H 杉本 実佳		34H 竹内 勇磨
			35H 當摩 一弘
			卒業生成績優秀者賞
			三種目以上一級合格者表彰
			32H 中井 薫
			33H 高村 陸
			34H 平田 菜月
			35H 上野 歩実
			同窓会幹事
			31H 飯田 大翔・中泉 樹乃
			32H 輪嶋 智拓・梶 弥音
			33H 坂井 辰士・宮前 夏帆
			34H 高井 優翔・西田 莉彩
			35H 當摩 一弘・本田 真莉
			北陵文化賞
			31H 神野 凌輔
			31H 越野遼太郎
			31H 矢津田風雅
			31H 加藤つばさ
			33H 上野 歩実



風鈴

全国学校図書館協議会の読書状況について毎年調査が行われている。平成28年5月1か月間の平均読書冊数は、小学生高学年で11冊、中学生42冊、高校生14冊という結果であった。また、1冊も読まない高校生は全体の4%である。

図書館で生徒にきくと、なぜ本を読むのか、読まなければならぬのかと答えるものも多い。多くは「人の話、目的がはっきりしない」という理由である。小中学生では、物語を楽しむための読書であり、高校生や大学生になると学びの要素も加わってくる。社会人になるとさらに、仕事に関連するものも加わってくる。読書とは、知識を得たり、感動したり、同じ本でも読者によって得られるものが違うものである。しかし、共通していることは、読むということである。

近年インターネットやスマートフォンの普及により、ほい情報簡単に入手できる。結果だけが読書であれば、これらは最高のツールであるが、読書はこれらのツールとは大きく違うのではないかと、二行読みながら感じることも、読書でしかできない素晴らしいことがある。また、コミュニケーション能力ということが話題となっている。高校大学を卒業し社会で働くとき、この力が大きく自分の将来を左右することがある。それは、読書によってこそ語彙力を含めた力として養われるものである。

目的はどうあれ読書は生きていく上で必ず役に立つ。1月かからうと半年かからうと気にせずとにかく読書始めたものが運命の冊である。

情報課 土田俊彦